



Japan Century Symphony Orchestra

J&C Japan Century Symphony Orchestra × *The Symphony Hall*

1830

— 3つの1830年、激動の時代を生き抜いた名曲たち —

メンデルスゾーン：序曲「フィンガルの洞窟」 op.26 〈1830年〉

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11 〈1830年〉

ベルリオーズ：幻想交響曲 op.14 〈1830年〉

Norichika Iimori Kazune Shimizu

【指揮】飯森範親 【ピアノ】清水和音 【管弦楽】日本センチュリー交響楽団

2019 **8.4** (日) 2:00pm開演(1:00pm 開場)

ザ・シンフォニーホール

主催：公益財団法人日本センチュリー交響楽団 / ザ・シンフォニーホール

©k.yamamoto

S席 5,940円 A席 4,860円 B席 3,780円(税込)

【ご予約・お問合せ】センチュリー・チケットサービス 06-6868-0591 (平日 10:00~18:00)

【プレイガイド】

■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333(10:00~18:00 火曜定休) <http://www.symphonyhall.jp> ■ チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:143-643)

■ e+ (イープラス) <http://eplus.jp>(パソコン・携帯) ■ ローソンチケット 0570-084-005[Lコード:57295] 0570-000-407(オペレーター対応 10:00~20:00)

※未成年者のご入場は御遠慮いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、曲目、経路が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

発売日
【一般発売】2019年3月24日(日)10:00~
【センチュリー・チケットサービス 一般発売】2019年3月25日(月)
【Sinfonia会員先行】2019年3月21日(木・祝)10:00~
【センチュリー・会員先行】2019年3月22日(金)10:00~

1830

—3つの1830年、激動の時代を生き抜いた名曲たち—

日本センチュリー交響楽団×ザ・シンフォニーホールによる名曲をお楽しみいただくシリーズ、今回は1830年に書かれた3つの作品をお聴きいただきます。1830年はフランス7月革命や、ポーランド11月蜂起といったその後のヨーロッパの政治や芸術に大きな影響を与えた事件が起こりました。そんな中で作られた3曲は、それぞれの曲想にその影響が反映されています。フィンガルの洞窟ではその影響が見られないとても平和な自然と人との営みが表現され、ショパンのピアノ協奏曲第1番では、祖国ポーランドの世情を絶妙に表現されていると思います。また、ベルリオーズの幻想交響曲はギロチンを恐れたシャルル10世の心情までも表しているかのような劇的な交響曲です。ショパンやベルリオーズを聴くに当たって、ドラクワが7月革命を主題として描いた「民衆を導く自由の女神」(同じく1830年作)の絵画をイメージしていただけたらさらにお楽しみいただけるかもしれません。

飯森範親

飯森 範親(指揮) Norichika Imori, Conductor

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。03年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞。海外ではフランクフルト放送、ケルン放送、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。現在、山形交響楽団音楽監督(07年から)、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者、2019年シーズンより山形交響楽団芸術総監督に就任。

オフィシャル・ホームページ <http://imori-norichika.com/>



©S.yamamoto

清水 和音(ピアノ) Kazune Shimizu, Piano

完璧なまでの高い技巧と美しい弱音、豊かな音楽性を兼ね備えたピアニスト。ジュネーヴ音楽院にて、ルイ・ヒルトブラン氏に師事。1981年、弱冠20歳で、パリのロン＝ティボー国際コンクール・ピアノ部門優勝、あわせてリサイタル賞を受賞した。これまでに、国内外の数々の著名オーケストラ・指揮者と共演し、広く活躍している。室内楽の分野でも活躍し、共演者から厚い信頼を得ている。これまでにソニーミュージックやオクタヴィア・レコードなどから多数のCDをリリースし、各誌で絶賛されている。ショパン、ベートーヴェン、ラフマニノフなどを中心に幅広いレパートリーを誇り、日本を代表するピアニストとして活躍中。



©K.Mura

日本センチュリー交響楽団 Japan Century Symphony Orchestra

大阪府のオーケストラとして1989年に発足し、2011年に公益財団法人日本センチュリー交響楽団として大阪府から独立。2019年に楽団創立30周年を迎える。現在は50名のメンバーが在籍。飯森範親が首席指揮者を務め、多彩な活動を展開する。年間10回のザ・シンフォニーホールでのシンフォニー定期演奏会、ハイドンの交響曲全曲演奏・録音プロジェクト「ハイドンマラソン」を展開中のいずみ定期演奏会(いずみホール)、そして大阪府豊中市立文化芸術センターでの名曲シリーズと、大阪府下3拠点で定期的な演奏会を開催。オーケストラ体感コンサート「タッチ・オーケストラ」、特別支援学校コンサート、ユースオーケストラの運営といった教育プログラム、「豊中まちなかクラシック」(豊中市)、「ルシオール街かどコンサート」(滋賀県守山市)等の地域連携事業にも力を入れている。「優れた演奏により地域の力を発信する」「オーケストラによる感動と癒しを提供する」「優れた才能を発掘し次世代の育成に寄与する」「国際相互理解や平和に積極的に貢献する」の4つの理念をもとに、演奏を通して多くの人々の心に明るい夢が広がることを願い、新しい時代のオーケストラとしての発展を目指し活動している。

オフィシャル・ホームページ <http://www.century-orchestra.jp/>



©S.yamamoto